

【第5回歯科技工技術安全研修】

日時：平成30年12月2日(日)

〔日 程〕

9:30 受付開始

10:00 会長挨拶、講師紹介

10:10 戸田 篤 先生 講演

『臨床総義歯の設計 ～患者さんの健康美と機能を求めた総義歯～』

12:00 休 憩 各自昼食 (1時間)

午前10時～午後4時 (受付開始9時30分～)

【第6回歯科技工技術安全研修】

〔日 程〕

13:00 戸田 篤 先生 講演

『デンチャーワールド ～患者のQOL向上を目指し、素材とテクニックを駆使した義歯～』

15:45 質疑応答

16:00 終 了

【講 師】 戸田 篤 (とだ あつし) 先生 (東京都歯科技工士会)

【略 歴】

1977年 愛歯技工専門学校 卒業

1977年 河邊歯科医院 勤務 (院内技工 18年)

1995年 トダプレシヤスアート 代表

2005年 デンタルデザイン デイズ 代表

河邊臨床教室 1996年～

総義歯臨床研究会「車座」 2007年～

臨床補綴研究会「口福」代表 2014年～

日本歯科技工士会会員 2006年～

日技認定講師 2011年～

GC Seminar Instructor 2007年～

MOKUDA Seminar Instructor 2007年～

TOKUYAMA Seminar Instructor 2014年～

TDS Instructor 2008年～

CP Denture® Instructor 1996年～

日本歯科技工学会 発表 2005年・2011年

全国歯科技工教育協議会 講師 2006年・2016年



【執 筆】

Denture World 義歯で口福になるために (デンタルダイヤモンド社) 発刊 2013年4月

COMPLETE DENTURE DESIGN 心でつくる総義歯 (医学情報社) 発刊 2018年2月

月刊 歯科技工・デンタルダイヤモンド・日本歯科評論・QDT 他 文献多数

【研 修 会 場】 三重県立公衆衛生学院

〒514-0116 津市夢が丘1丁目1-17

TEL:059-233-5700 FAX:059-233-5701

学院までの交通機関

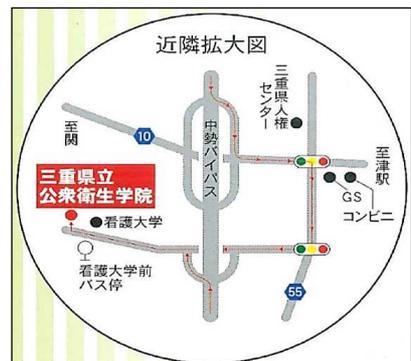
三交バス/近鉄・JR津駅西口①番のりばより看護大学夢が丘線

「夢が丘団地北」または「看護大学前」バス停下車徒歩約2分

JR紀勢本線/一身田駅下車 徒歩 約25分

タクシー/近鉄・JR津駅西口より 約10分

※ 三重県立公衆衛生学院 施設敷地内は 全面禁煙 です。



研修会の情報はこちらでもご覧いただけます。http://dtbank3.webcrow.jp/kensyu.html (三重県歯科技工技術安全研修)

【受 講 料】 無 料 【募 集 人 数】 60名 歯科医師・歯科衛生士の皆さまも受講いただけます。

【申 込 先】 三重県歯科技工士会

参加ご希望の方は「氏名、住所、電話番号、仕事先名」を

郵便、電話又はファックスあるいはEメールでお申込みください。

【募 集 期 間】 11月5日(月) 午前10時から 11月29日(木) 午後4時まで

【お問い合わせ】 一般社団法人 三重県歯科技工士会 〒514-0004 津市栄町2丁目410 山内ビル 2階

TEL:059-226-3273

FAX:059-253-3873

Eメール mieshigi@w2.dion.ne.jp

氏 名

電話番号

住 所

仕事先名

第5回 歯科技工技術安全研修（午前）

『臨床総義歯の設計 ～患者さんの健康美と機能を求めた総義歯～』

日技認定講師 戸田 篤
(東京都歯科技工士会)

義歯製作において臨床の場での「悩み」は、初心者のみならず、ベテランでも経験することです。特に総義歯においては無くなってしまった口腔組織の3次元の空間に痕跡を見つけ出しその情報をもとに個々に違う患者様の健康美と機能を表現していかなければなりません。大事な情報伝達である歯科医師との連携における食い違いや判断ミスなども悩みの一つです。大切なことは歯科医師と歯科技工士の**共通な物差し**を持つことだと思います。生体に調和させるべく固い模型で作業する我々の業は、気が付かないままに硬組織と粘膜を関与する軟組織の判断が薄れがちである。“臨床総義歯”を今一度理解しながら、基礎的で実践的な製作法について、今年出版された『**COMPLETE DENTURE DESIGN ～心でつくる総義歯～**』（医学情報社）の中から歯科技工士の役割分担をステップごとに生体を意識した感覚や技術をわかりやすく解説したい。

第6回 歯科技工技術安全研修（午後）

『デンチャーワールド ～患者のQOL向上を目指し、素材とテクニックを駆使した義歯～』

日技認定講師 戸田 篤
(東京都歯科技工士会)

高齢化が進み、義歯の重要性は増している半面、義歯に対するイメージは良い状況と言えるのでしょうか。更に、義歯に悪いイメージを抱いているのは患者さんだけとは言えません。日本の歯科技工士の9割が保険の枠で義歯を作っており、対価についても苦しい経営を強いられているように見受けられます。また、良い義歯を作るのは難しいと感じている歯科医師も増えているのではないのでしょうか。

そこで患者が待合室で気軽に読める義歯の本『**Denture World ～義歯で口福になるために～**』（デンタルダイヤモンド社）を2013年4月に出版した。超高齢社会において、より多くの国民の幸せを支えるために不可欠と言われながらも、国民からは敬遠されがちな義歯であるが、患者はもちろん、歯科医師、歯科技工士に向けて義歯の魅力を伝えるため製作した本です。保険で良い物が作れないとは言いませんが、材料や時間の問題を考えると限界があります。最良を考え適正な材料を選び、手間をかければ、もっと様々な質の向上した義歯を製作できるはずですが、義歯に対するイメージが良くないのは、良い義歯があるにも関わらず、それを術者、患者双方が知らないことが大きな要因ではないのでしょうか。

私は故 河邊清治先生の歯科医院に務めていた頃から、現在に至るまで、患者さんのQOL向上を目指したより良い義歯製作するために保険の枠にとらわれずに取り組んできました。

1本の欠損義歯から総義歯まで、私が約40年の間に行ってきた約3,000症例の中から、ほんの数例ですが、素材とテクニックを駆使した義歯を紹介しようと思います。私が提唱している修理加工のできるPMMAによる「**レジンクラスデンチャー**」や**レイヤーデンチャー（積層義歯）**の中から金属床とレジン床の良いところ取りをした「**CPデンチャー®**」、審美を追及した床部のカラーリングをした「**カラーレイヤーデンチャー**」、痛みの改善を考えたレジン床とシリコーンを積層した「**シリコーンレイヤーデンチャー**」など。その他パーシャルデンチャーに必要な維持装置やフレーム設計など河邊分類法から負担域を考えた設計などを視覚的に分かりやすいように写真から、簡単な特徴とメリット・デメリットをシンプルに解説したい。